

# <前置詞> aboutの世界

## CORE IMAGE



対象の周辺に、あたりに

Let's walk about the park.



about は around と似たところがあります。例えば、**Let's walk about Kamakura.** (鎌倉をぶらっこう)という場合、Let's walk around Kamakura. と表現することも可能です。しかし、行きたいスポットを決めてぶらつく際には walk around のほうが自然でしょう。about のコアは「対象の周辺に、あたりに」ということで、漠然と周辺を表すため「大体(アバウト)」だとか「そのあたりをぶらぶら」という感覚が生まれるからです。コアイメージは上の図のような感じです。



Let's walk **about** Kamakura.

鎌倉をぶらっこう

「彼女は家の周りのどこかにいます」という場合だと **She's about the house somewhere.** でOKです。



She's **about** the house somewhere.

彼女は家の周りのどこかにいます

**It's about 7.** のような時間を表す際には **It's around 7.** といっても実質は変わりません。7 時の周辺か、7 時の周囲かの違いだからです。「このあたり」も **about here** と表現し、「それはこのあたりにあった」は **It was about here.** となります。これも **around here** と表現することが可能です。



It's **about** 7. / It's **around** 7.

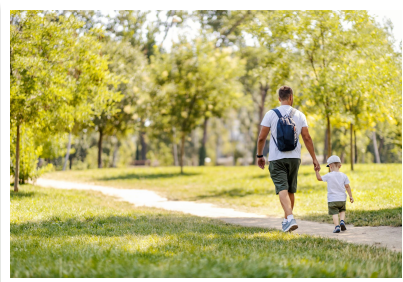
7時ごろだ



It was **about** here. /  
It was **around** here.

それはこのあたりにあった

前のページで述べたように、**Let's walk about the park.**  
とも **Let's walk around the park.** ともいいますが、**walk about** のほうが「適当にぶらぶら歩く」という感じがします。



Let's walk **about** the park.

公園を(適当にぶらぶら)歩こう

しかし、「ある話題について話す」という場合、**I want to talk about the purposes of education.** (教育の目的について話したい)と about を使います。talk around the purposes of education といえば「教育の目的を避けて話す」となりまったく意味が違ってきます。about だと話題を中心にしてその周辺にも及ぶという感じですが、around だと話題の周りをぐるぐる回るといことになり、結局は「話題を回避する」ということになります。ちなみに、talk on the purposes of education といえば、教育の目的という話題に接して離れないということから、そのことを専ら話すという感じになります。



I want to talk **about** the purposes of education.

教育の目的について話したい

また、about には **it's about time** という決まり文句があり、「もう～してもいいころだ」という意味合いで使います。**It's about time he got here.** だと「彼はもう着いてもいいころだ」という意味。これも It's around time とは言いません。



It's **about** time he got here.

彼はもう着いてもいいころだ

決まり文句といえば、ほかにもいくつかあります。**How about you?** がその 1 つです。「あなたはどうですか」という意味合いですが、「あなたの周辺はどうですか」と理解することもできます。また、**That's about it.** は決まり文句で「そんなところですよ」といった意味合いで使われます。これも「周辺」の about から「だいたいそんなところ」という意味が出ているのです。



How **about** you?

あなたはどうですか  
(あなたの周辺はどうですか)



That's **about** it.

そんなところです

もう1つ決まり文句として、**be about to do** に注目しておきましょう。「今、まさにしようとしている」という意味合いを表現するのにピッタリです。**The coffee you are about to drink is extremely hot.** (飲もうとしているコーヒーはとても熱い)のように使います。空を見上げて今にも雨が降りそうだという場合、**It's about to rain.** と言います。It's going to rain. とも言いますが、明日、雨になりそうだ、という場合、It's about to rain tomorrow. とはいえません。それは、about が「物理的に周辺に」ということで、時間的に先のこと、つまり、明らかに未来のことには向かないのです。It's going to rain tomorrow. は OK です。



**be about** to do

今、まさにしようとしている



The coffee you are **about** to drink is extremely hot.

飲もうとしているコーヒーはとても熱い



It's **about** to rain.

(空を見上げて)今にも雨が降りそうだ